

実践事例2 単元の後半で、習得した知識を活用する学習問題Ⅱづくり

単元の指導計画

単元名

第6学年 「町人の文化と新しく生まれた学問」（全6時間） [東京書籍6年上]

単元の目標

江戸時代に生まれた文化や学問に関心をもち、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について資料を活用して調べ、江戸時代を代表する文化や学問について考える活動を通して、社会が安定するにつれて、町人文化や、蘭学や国学といった新しい学問が生まれたこと、それらに関わる人物の働きが理解できるようにする。

学習指導要領の内容（1）カ
「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること」

単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度【関】	社会的な思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の技能【技】	社会的事象についての知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物に関心をもち、それを意欲的に調べている。 ○江戸時代の文化や学問とそれらに関わる人物について、人物の業績や働き、特徴を比較し、江戸時代を代表する分野を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○江戸時代の文化や学問に関わる人物の業績や働き、特徴を比較して、お勧めする分野を考え適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地図や年表、その他の資料を活用して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績について必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことをワークシートにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらに関わる人物の努力や業績を理解している。 ○社会が安定するにつれて、町人文化が栄え、新しい学問が起こったこと、こうした文化や学問が当時の人々や後世に影響を与えたことを理解している。

単元の構造（全6時間）

室町時代の文化の確認（今につながる和風文化）（武士や貴族が中心）（中国の学問）			
（第1時）江戸時代の文化や学問について学習問題をつくろう。			
（学習問題Ⅰ）江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか。[知識や概念の習得]			
分野	調べる視点 「誰が」	「業績（したこと）」	「特徴」
（第2時）江戸時代の文化を調べよう。	文化 近松門左衛門 歌川広重	歌舞伎や人形浄瑠璃 浮世絵	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の文化は「町人」が中心 ・多くの人や世界の文化に影響した
（第3時）江戸時代に生まれた学問（蘭学）を調べよう。	蘭学 伊能忠敬 杉田玄白	正確な日本地図 解体新書	
（第4時）江戸時代に生まれた学問（国学）を調べよう。	国学 本居宣長	古事記伝	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの新しい学問 ・現在でも使われる技術
※時代背景	大塩平八郎の乱（庶民の不安・不満）		
（第5時）学習問題Ⅰをまとめよう。			
（学習問題Ⅱ）江戸時代を代表する文化や学問を考えよう。[知識の活用・定着]			
（第6時）討論会をして、「江戸時代を代表する文化や学問」について考えよう。			
《討論の視点》「影響を与えた人」「努力や苦労」「現在への影響」			
歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かる。			

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○資料の読み取りの指導の中で、「分かること」から「考えられること」を問い掛け、調べたことを基に「なぜそんなことをしたのか」などの社会的事象の意味を理解する思考へと段階的に導く。

「つかむ」過程

- ① 室町時代の文化や学問を「人物」「業績（したこと）」「特徴」の3つの視点から振り返らせ、短文で表現させる。
- ② その後、雪舟の水墨画と近松門左衛門の浮世絵を提示し比較させることで、色使いや描かれているもの（人）に気付かせ、江戸時代の文化や学問の特徴を予想させる。
- ③ 予想を発表させ、児童に「どうして、そう予想したの？」や「この予想は納得できる？」と問い返したり、問い掛けたりしながら、児童の疑問を引き出す。
- ④ 児童の疑問を基に、「これからどんな学習をしていくか」を問い掛け、「誰が」「どんなことをしたのか」「どんな特徴があったか」を調べたいという思いから、学習問題Ⅰを児童と共につくり、児童に「何を調べればよいか」を問うことで、調べる視点を定める。

「調べる」過程

- ① 調べて「分かること（「誰が」、「業績」）」から「考えられること（特徴）」を問い掛けることで、関連付ける思考をさせる。
- ② 毎時、学習問題Ⅰに立ち戻らせ、解決できたかを振り返らせ、短文で調べたことまとめさせる活動を仕組むことで、総合する思考をさせる。

○学んだ複数の情報を関連付けて説明させる活動を取り入れる。（学習問題Ⅱの設定）

「考え・まとめる」過程

- ① 「一番すごい人物（分野）は誰だ（どれだ）と思うか？」を問い掛け意思決定を迫ることで、「調べる」過程で調べたことや考えたこと人物別や分野別に比較する思考をさせる。
- ② 意思決定の理由を問うことで、人物の業績や江戸時代の文化や学問について学んだ知識を活用させ、知識の定着をねらう。
- ③ 学習のまとめとして、「江戸時代を代表する文化や学問について考えよう」という論題で討論会を行うことで、特徴や時代背景などを総合して「江戸時代の文化や学問はなぜ生まれたのか」を考えさせる。
- ④ 討論会を通して、江戸時代の文化や学問を関連付ける思考をさせ、討論会で自分の考えを説明させたり、記述させることで、児童の思考力・判断力・表現力を高める。